

3年で20人以上がやってきた秘密は

1年住める

「お試し住宅」

岡山県美作市・  
梶並地区活性化推進委員会

2008年に県から「限界集落対策モデル地区」に指定された梶並。あまりうれしくない先進地だが、これを機会に梶並地区活性化推進委員会・通称「かじかつ」が発足。6つの集落の区長や総代、民生委員など約20名が集まった。さっそくみんなで住宅地図に家族構成や年齢、高齢者の一人暮らしなどの情報を書き込んでみたら、なんと450軒のうちの150軒が空き家と判明した――。

文〓編集部 写真〓大村嘉正

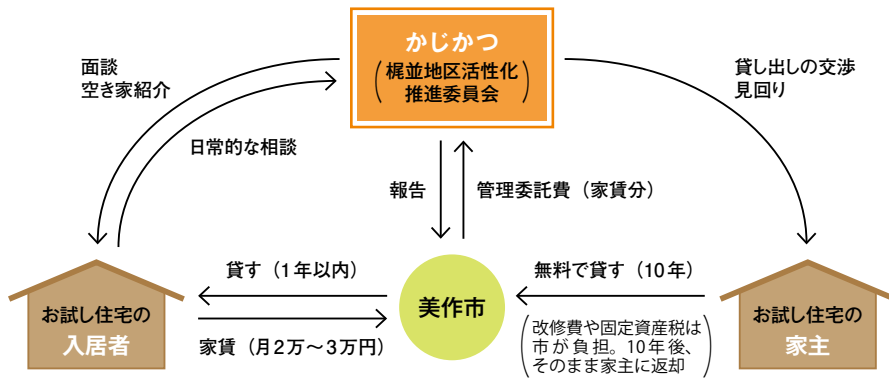


山々に囲まれた梶並地区。外から見ただけでは空き家かどうかはわかりにくい



お試し住宅2号棟。2階と左の納屋は「開かずの間」。入居者がいないときは、かじかつが分担して草刈りや風通しをして、希望者がいつでも見学できるようにしている

お試し住宅のしくみ



梶並地区 (旧勝田町・2005年合併) は美作市の中心地から車で30分。1950年代の地区の人口は3800人だったが、現在は約700人、高齢化率60%。地区唯一の梶並小学校は児童7人、2016年3月に廃校になる

梶並の暮らしを試せる1年

「3分の1も空き家だったとは。数字が出る」とシヨックでしたね」と、かじかつの会長を務める富阪皓一さん(72歳)。

「子供世代は外に出てしまっていて、一番増えているのは一人暮らしの高齢者が介護施設に入って空き家になるケース。なんとかしなければ……」

そこで2012年、市の事業でかじかつが始めたのが「お試し住宅」だ。空き家を改修して、市内への移住希望者に最長1年間、月2万〜3万円で貸し出す。移住希望者はここで梶並の暮らしを試しながら、次の家を探したり、見つかった空き家を改修したりする期間をとれる。

現在3棟あり、かじかつが日々の見回りや、入居した人に次の空き家紹介をしている。市でも空き家バンクをつくってはいるが、物件がなかなか集まらず、せっかく移住してきた人も地域になじめなくて出て行ってしまいうことが多い。

「空き家は放っておけばマイナスだけど、生かせば宝。ここには農地もある。地区が世話すれば、もうちょつとうまくいくのでは」というのが、富阪さんのもとの考えだった。「むらとの共生というんですかね、新しい方と地元住民とのつながりをつくったり、畑が見つからなければ紹介したり。われわれなら移住者の方がここで気持ちよく暮らせるように応援できる。それから、お試し住宅は1年



9年前に定年退職してUターンした富阪皓一さん。「母がいるので月1回は地区に顔を出してたから浦島太郎状態ではなかったけど、帰ったとたん待ってましたとばかり、役がどつと回ってきた」

で出ていかななくてはいけないですから、空き家を紹介もします」と富阪さん。かじかつはこうした面倒を見ることで、お試し住宅の家賃の全額分を委託管理料として市からもらい、活動費にしている。

移住希望者向けに貸し出される家はよそにもあるが、ほとんどが1〜2週間限定。梶並のようにサポートを受けながら1年も住めるのは珍しい。「じっくり家探しができて地域のこともわかる」と、とても人気で、1軒空くと1カ月以内に3組以上の申し込みがあるそうだ。

かじかつがやっていること

空き家の家主は、隣の津山市や遠くは首都圏に住んでいることが多い。いっぽう移住者は東北や関東、近畿圏からの若い夫婦や定年帰農者などさまざま。すでに4世帯がお試し住宅を体験し、いずれも梶並地区や美作市街地へ移住している。

かじかつが家主や移住者とどんなやりとりをしながら取り組んできたのか、富阪さんに聞いてみた。